子宮内環境を知る　-早産を引き起こす上行性感染の早期診断母体血清マーカーの探索-

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本DOHaD学会 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 富田, 芙弥, 齋藤, 昌利, 築地, 謙治, 濱田, 裕貴, 八重樫, 伸生 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004017

DOHaD 研究 (ISSN 2187-2597)
2021 年 第 9 巻 第 2 号 79 頁

第 10 回日本 DOHaD 学会
＜一般口演 4＞

子宮内環境を知る -早産を引き起こす上行性感染の早期診断母体血清マーカーの探索-

1 東北大学産婦人科、2 東北大学医学系研究科 産科学・胎児病態学分野／周産期医学分野、
3 東北大学病院 臨床研究監理センター

富田 芙弥 1
齋藤昌利 1,2、築地謙治 1,3、濱田 裕貴 1、八重樫伸生 1

【緒言】世界における全出生数の約 11%が早産であり、早産は周産期医療が発展した現在においても頻度が高い疾患である。早産の主な原因は腟から子宮内への上行性細菌感染であると考えられている。しかし早産を惹起する上行性細菌感染を極早期に診断できる臨床的に有用なマーカーは現在存在しない。過去において、我々は腟から子宮内への上行性細菌感染を再現し、早期の絨毛膜羊膜炎を引き起こして早産を惹起するモデルマウスを作成した。このモデルマウスを用いて母体血清中の早産予測マーカーを探索することを目的として本研究を行った。
【方法】妊娠 14.5 日のマウスの腟内に Lipopolysaccharide(LPS) 500 μg を投与し、早産を誘発するモデルマウスを作成した。LPS 投与後 1、2、3、6、12 時間後に母獣より採血を行い、血清中の 23 種類のサイトカインをマルチプレックスアッセイにて網羅的に解析した。
【結果】上記モデルにおいて LPS を投与したマウスの 47%が 24 時間以内に早産に至った。早産したマウスの母獣血清中では、LPS 投与後 2 時間後から炎症性サイトカインである G-CSF、IL-12(p40)とケモカインである MCP-1、 MIP-1・、 MIP-1・、 RANTES、 KC が非早産マウス（LPS を投与したが早産しなかったマウス）およびコントロールマウス(PBS を投与)と比較して有意に上昇していた。
【結語】本研究により炎症性サイトカインである G-CSF、IL-12(p40)とケモカインである MCP-1、 MIP-1・、 MIP-1・、 RANTES、 KC が早産を引き起こす上行性感染の母体血清中マーカーとして有用である可能性が示唆された。